

# 指定課題一覧

## 指定課題共通テーマ「新年の抱負」

年賀はがきコンクールは硬筆で指定課題のみ、学生書き初め展覧会は毛筆で指定課題と自由課題があります。書文協では、両コンクールともに、指定課題共通テーマは、第6回に引き続き「新年の抱負」としました。

日本では古くから、正月にお年始の風習が盛んでした。旧年中の交流を謝し、新年を祝い、今年の抱負（決意）を述べ、一層の交流を願うのです。遠方の相手などには手紙で年始を代用することが慣例となったのが年賀状・年賀はがきです。

2019年は天皇の退位、新天皇の即位があり、5月1日に改元されます。平成最後の年となるわけです。また、東京オリンピック・パラリンピックが翌年7月に迫り、ムードが高まるでしょう。

各自にも様々な出来事の予定・予想があると思います。決意、目標は自分にとって前向きで、世の中のためにもなることが大事です。

伝統文化大会への出品が、新年の抱負を固めるきっかけになれば幸いです。

(参考)

日本では古くから、正月にお年始の風習が盛んでした。旧年中の交流を謝し、新年を寿（ことほ）ぎ、抱負（決意）を述べ、新年の一層の交流を願うのです。遠方の相手等には手紙で年始を代用することが慣例となったのが年賀状（はがき）です。書き初めは、初めて文書を書く宮中の行事として始まりましたが、新年に改まった心で抱負（決意）を書く行事の意味合いが強くなりました。

### 両コンクール出品にあたり

#### お手本・用紙

#### <お手本の販売>

指定課題の年少～一般（書き初め展覧会は高校生）までの大平恵理揮毫の参考手本が11月初旬から販売されます。硬筆（原寸大）1枚30円、毛筆（A3判

に縮小) 1枚 100円。送料はご負担ください。書文協ホームページより縮小版が11月中旬ごろアップされ、ダウンロードできます。

### ＜書き初め展覧会用紙＞

半紙、八ッ切、半切および各地域指定版とする。指定課題は指定用紙のみ。

### ＜年賀はがきコンクール用紙＞

「年賀はがきコンクール清書用紙」（書文協製）か郵便はがきで。

用紙の材質がまちまちで審査の公平に響かないよう、年賀はがきコンクールは書文協作成の応募清書用紙（はがき大、白地）か日本郵便はがきを使います。用紙は参加予定申込書で書文協にご請求ください。1枚 13円。100枚以上は1枚 10円に値下げします。送料はご負担ください。

### ＜応募点数＞

年賀はがきコンクールは指定課題 1点。

書き初め展覧会は指定課題と自由課題の部があり、双方に応募できる。

指定課題は 1点、自由課題は文言が異なるか、あるいは同じ文言でも用紙が異なれば 1人 3点まで応募できる。複数点数の場合は、その中の最優秀と認められた作品 1点について審査し、賞を与える。

### ＜園・学校特典＞

幼稚園・保育園、学校単位で出品する時は 1人につき参考手本 1枚、年賀はがきコンクール応募清書用紙 2枚が無料で提供されます。それを超える分は実費となります。送料は合わせて各自負担です。

## 書く上での注意

### ＜筆記具＞

筆記具は、全国年賀はがきコンクールは鉛筆やペンなど硬筆に限り、筆ペンを使用できません。鉛筆は 2B を推奨します。中学生以上はなるべくペンを使用してください。書き初め展覧会は毛筆のみとします。

### ＜賀詞、日付、発信者は明確に＞

誰が、いつ出したものか明らかにしましょう。新年を祝う賀詞（がし）も付けることを覚えてください。誰に出すかの相手意識を明確にしたいと思います。指定課題では、小学生以下はお友だち、中学生以上は目上に出す設定を基本にしています。

学生書き初め展覧会では、指定課題以外の文言を書く自由課題でも応募できます。（課題文が異なれば 1 人 3 点まで出品できます。また指定課題を違う用紙で書いた作品 2 点まで、計 5 点まで応募できます。賞は、その中の最優秀作品 1 点が対象）。

### ＜表記について＞

#### 漢字・仮名遣い

小学生は漢字は学習指導要領が定める学年配当に準拠します。総合大会では、漢字は全学年配当までを原則としましたが、伝統文化大会は学年末に近い大会であることから、一部の課題で該当学年配当の漢字を使用しました。

小説・詩歌の表記は原文通りではありません。学習指導要領では、子どもたちが古文に親しむことが奨励されており、歴史仮名遣いは原則として残しました。散文は句読点を付けました。

### ＜自由課題の原則＞

以上の原則は学生書き初め展覧会の自由課題でも同じです。毛筆用紙は縦書き、縦使用とします。文字によって表現することとし、審査は、止め、はね、払いや点画、配置の良さ等を考慮して行われます。

### ＜氏名の書き方＞

氏名の書き方は、参考手本の例によってください。落款印だけは不可です。氏名は、ひらがな・漢字を原則としますが、応募者に事情がある場合は、カタカナ、アルファベットも使えます。教室生は教室指導者を通して書文協本部に問い合わせてください。就学前幼児は、名（ファーストネーム）だけでも可です。

## 全国年賀はがきコンクール

- 幼児（年少年中） けいこ  
なまえ
- 幼児（年長） おめでとう  
なまえ
- 小1 おめでとう  
げんきにあいさつ  
三十一年正月  
小一 氏名
- 小2 おめでとう  
たくさん字をおぼえます。  
三十一年正月  
小二 氏名
- 小3 あけましておめでとう  
早起きをするようにします。  
三十一年正月  
小三 氏名
- 小4 新年おめでとうございます  
ていねいな言葉を使うようにします。  
平成三十一年正月  
小四 氏名
- 小5 新年おめでとうございます  
下級生のめんどろをしっかりとみます。  
平成三十一年正月  
小五 氏名
- 小6 明けましておめでとうございます  
中学生になったら地域のボランティア活動に  
参加します。  
平成三十一年正月  
小六 氏名

中学（楷書、行書同一） 明けましておめでとうございます  
問題を自分で考え、何が良いか判断して  
行動できるようにします。  
平成三十一年元旦  
中一、二、三 氏名

高・大・一般（行書） 謹賀新年  
国際交流を深め、異文化の理解と共に日本の  
伝統文化を大切にします。  
平成三十一年元旦  
氏名

## 全国学生書き初め展覧会

**審査：**指定課題（1人1点）と自由課題（1人3点まで）の部があります。審査は、指定課題と自由課題（複数出品の場合は上位1点を対象）合わせて行われます。

### 指定課題

幼年（年少～年長）半紙	く
小1 半紙	かく
小2 半紙	とぶ
小3 八ッ切	つよい心
小4 八ッ切	芽を出す

小5	八ッ切	空を飛ぶ
小6	八ッ切	一念発起
中1行書	八ッ切	頂上に挑む
中2行書	八ッ切	学成り難し
中3行書	八ッ切	力耕不吾欺
高校	半切	<漢字の部> 人一能之己百之  <かなの部> 元日や上々吉の浅黄空 小林一茶
大学	半切	<漢字の部> 大道無門千差有路 透得此関乾坤独歩  <かなの部> 新しき 年のはじめに 思うこと ひとつ心につとめて行かな

## 自由課題

課題文言：書きぞめにふさわしい自作、あるいは他コンクールでの該当学年課題等。高校生以上は出品票に「出所」、「語句」も記入してください。

# — 解説 —

## 全国学生書き初め展覧会

### ◆中 2: 学成り難し

「偶成」という題の漢詩の一節「少年<sup>やす</sup>老<sup>がくな</sup>易<sup>かた</sup>く学成り難し」からの言葉。若いうちはまだ先があると思っているが、年月はすぐに過ぎて、年を取ってしまう。だから若いうちから勉学に励まなくてはいけない、という意味です。漢詩は続けて「一寸<sup>いっすん</sup>の光陰<sup>こういん</sup>軽んずべからず」と続きます。

### ◆中 3: 力耕不吾欺

「力<sup>りき</sup>耕<sup>こう</sup>吾<sup>われ</sup>を欺<sup>あざむ</sup>かず」。力<sup>たがや</sup>で耕す、とは力を込めた野良仕事を指します。田畑を一生懸命に耕せば、田畑は耕した人を欺かないでよく実る。つまり、自分が力を尽くせば、望む結果が出るという意味です。中国の昔の詩人陶淵明<sup>とうえんめい</sup>の言葉です。

### ◆高校漢字の部：人一能之己百之

「人<sup>ひと</sup>一<sup>ひと</sup>たびしてこれを能<sup>よ</sup>くすれば、己<sup>おのれ</sup>之<sup>これ</sup>を百<sup>ひゃく</sup>たびす」。他人<sup>たにん</sup>が一回でできることなら、自分は百回やってみる、という意味。努力を重ねれば、必ず目的を達成できるという教えです。「四書」の一つとして知られている「中庸<sup>ちゅうよう</sup>」に出てきます。

◆高校かなの部：元日や上々吉の浅黄空 一茶

江戸時代の俳人、小林一茶の作。「上々吉」とは、このうえなくよい、という意味。「浅黄」わずかに緑色を帯びた薄い青色のこと。今年の元旦は、とびきり上等の元旦だ。真青な空もなんと気持ちのよいことか、というめでたい句。

◆大学漢字の部：大道無門千差有路  
透得此関乾坤独歩

だいどうむもん せんさみち 此の関を透得せば 乾坤に

独歩せん大きな道路には門がなく、四方八方にあけっぱなしである（千差路有り）。この無門の関をつらぬいて大道に至ったならば（透得せば）、その人は大手をふって天地（乾坤）を歩くことができるであろう、という意味とされます。

中国の仏教書「無門関」（禅僧、無門慧開著）にある言葉で、仏道に一定の入り方はない、という意味だとされます。

◆大学かなの部：新しき 年のはじめに 思うこと ひとつ心に  
つとめて行かな

歌人で精神科医でもあった茂吉は、大正から昭和初期にかけてアララギ派の中心人物でした。歌の意味は、物事に精を出していきたい、ということで、新年の素直な決意を歌でさらりと表しました。